

新たに刻まれる歴史

船越小新校舎完成

東日本大震災大津波により被災し、再建中であつた船越小
学校（佐々木茂人校長、児童137人）の新校舎が完成しま
した。新らしくなった船越小は「地域に開かれた学校」とし
て、新たな歴史を刻み始めます。

◎校舎を襲った大津波

平成23年3月11日、東日本一帯にマグニチュード9・0とい
う前代未聞の大地震に見舞われ、太平洋沿岸に大津波が押し寄せ
ました。

当時、船越小学校は海拔13
の高台にありましたが、高さ18
の津波は校舎2階にまで達す
るほど。校務員の機転により難
を逃れた子どもたちでしたが、
慣れ親しんだ校舎で学ぶことは
不可能となり、学校が再建され
るまでの間、学びの場を探さね
ばなりませんでした。

◎青少年の家を間借りして

子どもたちの学びの場として、
県立陸中海岸青少年の家を仮設
校舎として使用することになり
ました。青少年の家の協力を得
ながら、研修室を教室に改装し
たり、仮設の理科室を建てたり
と、本設の学校と比べれば不便
ではありましたが、子どもたち
は元気に勉強し、伸びやかに成
長していきました。

子どもたちは誓います。「新
しい校舎が出来るまで、船小の

歴史」を絶やさずに行こう」と。

◎新校舎の建設開始

新校舎を建設するにあたり、
「現在の場所を再建」「新しく安
全な場所を確保し再建」といっ
た様々な案が出ました。保護者
や地域の住民らによる検討と、
船越小周辺の地権者らの協力に
より、「従来の場所の裏山を切り
開き、かさ上げをした上で再
建」することになりました。

◎新校舎落成

4月5日、海拔24に再建さ
れた新校舎の落成記念式典が行
われました。この記念すべき日
を祝うため、船越小2年生から
6年生の児童のほか、町内外か
ら多数の来賓が出席。式では、
児童代表として6年生の湊大輝
くんが「理科の実験や体育館で
のドッジボールが楽しみ。新校
舎を大切に使っていきたい」と
あいさつしました。また、同小
児童が作詞した「明日（あした）
へ」を、声楽家・黒木香保里さ
んとともに披露。新校舎に、子
どもたちの美しい歌声が響き渡
りました。

新校舎落成よろこびの声



たいよう
田代太陽くん（6年）

新校舎になってからは、登下校時などに旧校舎のあった場所の前を通るので、非常に懐かしく思います。今の校舎は新しすぎてまだ慣れていませんが、旧校舎と比べて本の種類が増えた図書室が、お気に入りの場所です。津波があつていろいろつらいことがあつたけど、みんな復興に近づいています。船越小学校を世界一にぎやかな学校にしていきたいです。

新しい校舎はピカピカしていて、教室がたくさんあります。また、自分たちのプールが出来たので、早く泳ぎたいです。

これから、みんながあいさつをして明るく元気な船越小学校にしたいと思っています。地域の皆さん、私たちは新しくなった学校で一生懸命がんばりますので、運動会やいろんな行事をぜひ見に来てください。



ゆか
船越裕香さん（6年）

校長先生から



佐々木茂人校長

これまで子どもたちは、青少年の家で学習に励んできましたが、本設の校舎に学びの場が移り、勉強や運動をのびのびとできる環境が整ったことは喜ばしいことです。これまでお世話になった青少年の家の職員方、プールをお借りした各小・中学校の皆さまには、この場を借りてお礼申し上げます。



新しくなった船越小学校は、地域に開かれた学校として生まれ変わりました。4月5日の落成式典の後には、地域の皆さんに学校を知ってもらおうと見学会を開催。地域の家族連れなど訪れた150人もの人たちは、新しい木の校舎の温もりを感じながらも、新しく整備された「防災学習室」や体育館、ピカピカの真新しい楽器にあふれた音楽室など、「おらほの学校」を興味深げに見て回りました。

この日は、同校卒業生や入学予定の子どもらなども見学に訪れ、きれいな校舎におおはしゃ

新校舎を染める 子どもらの笑顔



記念式典では黒木さんから児童へ歌のプレゼント



4月5日に行われた入学式

ぎ。一足先に子どもたちの歓声がこだましていました。
4月7日、入学式が行われました。この日新しいランドセルを背に登校したのは、男子13人、女子12人の計25人。来賓からの「入学おめでとう」の言葉に、元気よく「ありがとうございます」と返す新1年生の姿を、保護者らは微笑ましく見守っていました。式の中で佐々木校長は「立派な1年生になるには、きちんとあいさつをし、しっかりと座つたり立ったりすることが大事です」とあいさつ。待ちに待った新1年生の入学に、在校生の顔も喜びにあふれ、新しい校舎は、子どもたちの笑顔に染まっていました。